

# だんだん

## 出現! 田んぼの中の滑走路

田んぼの中に滑走路の誘導灯が出現しました。大地の芸術祭／朝岡あかねさんの作品「TMR(妻有空港)計画～田んぼのエアポート」(中屋敷)です。会期中、爽り行くコシヒカリの水田に、夜だけの空港が現れます。

### 主な内容

● [特集①]	● [特集②]	● [特集③]	● [特集④]
● 芸術祭誕生秘話	● 大地の芸術祭 深発見!!	● 総合計画基本構想③ 地域協議会①	● 利雪・楽雪踏み出す一歩
..... 2	..... 8	..... 13	..... 14
..... 6	..... 11	..... 13	..... 15

# 特集① 芸術祭誕生秘話

## ～第1回担当者が語る“ココだけ”の話～



7月23日(日)、第3回大地の芸術祭「越後妻有アートトリエンナーレ2006」が開幕しました。9月10日(日)までの50日間、これまでに恒久設置された作品を合わせて約330もの現代アートが、十日町市・津南町の大地に展開されています。作品制作には作家はもちろん大勢の市民も参加し、期間中催される様々なイベントも含めて世界最大の現代アートの祭典と言われるまでになっています。

しかし、第1回開催のころは市民への浸透も不十分で各地で賛否の議論が展開されました。開催決定に至るまでも相当の紆余曲折があり、県と6市町村(当時)の担当で組織するワーキングチームでも連日突っ込んだ議論が戦わされました。関係者から芸術祭誕生前後の話をうかがいました。

### ワーキングチームはなぜ生まれたのか

「大地の芸術祭」は、平成8年に策定された「越後妻有アートネットワーク整備構想」の中核事業として平成12年に第1回が開催されました。以来3年に1回実施されて今日に至っていますが、その原点は、平成6年に十日町地域が新潟県の「二ニュー」にいがた里創プラン」の地域指定を受けたことにあります。

これは、当時14圏域あった県内の広域市町村圏のうち、過疎・高齢化が進むとともに高速交通体系や大規模事業の整備が見込まれている6圏域について、県と市町村が協働して新しいプランをまとめ、具体的に事業化するというものでした。ほくほく線開業間近だった十日町地域は、他圏域に先行して指定を受けました。

平成7年、県と6市町村で「十日町地域二ニューにいがた里創プラン策定協議会」が組織され、具体的プランを策定するために、それぞれの若手・中堅職員からなる「ワーキングチーム」(以下「ワーキング」)が生まれました。以来、定期的な会議や合宿、有識者との懇談や先進地調査などを重ね、冒頭の越後妻有アートネットワーク整備構想がまとまりました。平成8年、事業の推進母体として十日町地域広域事務組合に企画振

興課が設けられ、大地の芸術祭実施計画や各市町村のステージ基本計画策定(平成10年)などのほか、住民を交えてのシンポジウムやワークショップ・イベントも数多く実施されました。地域の魅力を再発見する写真コンテスト「越後妻有8万人のステキ発見」や花で地域を輝かせる「花の道」事業など(平成10年～11年)はその代表的なものです。

これらの事業も、企画段階はもとより実施段階でも、ワーキング内で侃々諤々の議論が交わされながら進められました。

### 第1回大地の芸術祭

#### ワーキングチーム

懇談会出席者(敬称略)

※(一) 書きは当時の立場・所属

- 北川フラム (総合コーディネーター)
- 高橋 豊 (新潟県地域政策課)
- 渡辺 齊 (新潟県地域政策課)
- 藤巻 誠 (十日町地域広域事務組合)
- 押木 仁 (十日町市/広域事務組合)
- 渡辺正範 (川西町)
- 石澤憲一郎 (津南町)
- 広田 孝 (中里村)
- 堀川 一郎 (松代町)
- 本山敏雄 (松之山町)

### ある首長の言葉でハラが成った

「プラン策定から第1回開催までの中で印象に残っていることは？」



高橋 平成5年

「6年ころ県では、過疎・離島・特別豪雪地帯などハンディキャップを背負っている地域の振興策を、「広域連携」「地元が考える」というキーワードで進めようと考えていました。二つとも今では当たり前ですが、当時としては珍しいことでした。そこで生まれたのが「里創プラン」で、今思うとネーミングが良かった(笑)。

県の職員と市町村の職員がいつしよになつて振興策を考える、しかも中身は何でもいい、10年間の総事業費10億円、うち6割を県が補助するというプロジェクトは、確かに破格で画期的なものでした。しかし、事業を預かる身(担当課長)としてはハラハラドキドキの連続。テーマが「アート」と聞いたときは正直言っただけで仰天しました。確かに未知の魅力はあると思いましたが、着地点が見えない飛行機みたいでイスの座り心地は悪かったですね(笑)。関係機関やマスコミに説明したとき

### 10年でアートは親しみやすくなった

も半信半疑の状態でした。記者会見の席上、「過疎や高齢化が止まらないこの地域の将来を切り開くには、これくらいとんがったことをやらなければダメだ!」というある首長の発言を聞いて、「よしやろう!」とハラがすわりました。



渡辺(音)

いわゆるシンクタンクを使わず住民とともに地元で考えるという方法で、皆さんと会議や合宿で何度も議論しました。

この地域はいろんな意味で厳しいところですが、乱開発が行われなかっただけに美しい里山の文化・自然が残っていました。そこで、里山の「美しさ」「交流」「アート」をキーワードに地域の活性化を図っていきましょうとまとまり、視察や様々な分野で活躍する人たちの話を聞くうちに、北川フラムさんという現代アートのプロデューサーに出会いました。それから、「アートネットワーク整備事業」のプランが固まってきました。ただ、そこにたどり着くまでは、様々な事例の調査やけんかまがいの議論も繰り返して行いましたね(笑)。

### アートは世界を舞台にした

地域を創ることは生やさしいことではない。でも、10年間やってきたことは着実に地域に根付いてきていると思います。たとえば、もう耕作放棄しようとしていた棚田を、芸術祭をきっかけに作り続けるようになったり、若い人を中心に「うちの地域にはアートがある」と胸を張る人たちが出てきていることなどです。



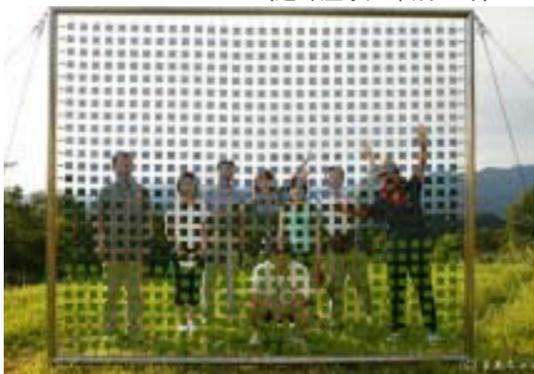
北川 この地

域は世界一の豪雪地帯で高齢化・過疎化も最先端を走り、山間地で地すべりもあ

るし農業効率がすごく悪いところですが、でも、そんな土地をものすごく丹精込めて手入れしている。特に、道行く人を歓迎するように家の前に花を植えてある風景は感動的です。こういうことこそ文化基盤だと思います。だから、ここで大地の芸術祭をやろうという気持ちになりました。

地域づくりには、新しい視点が必要であると同時に、抜きん出た発信力が必要。その起爆力としてアートの参加が重要になります。彼らのテーマは民族、地球環境、情報、ライフスタイルなど、私たちにとって足りないがしろにできない問題です。

「視点」作家：フランシスコ・インファンテ (芝峠温泉/平成12年)



「棚田」作家：イリヤ&エミリア・カバコフ (松代ステージ/平成12年)

「夢の家」の制作意図を説明する作家マリーナ・アブラモビッチ（湯本/平成11年）



芋川集落の人たちと「リネン」を制作中の作家クリスチャン・ポルトンスキー。終了後はパーベキューで交流（平成12年）



北川フラム氏を総合コーディネーターに依頼するきっかけとなった講演会。ワーキングのメンバーと（平成7年）

これを美術館という均質な空間ではなく広大な緑の里山に展開することで、彼らの提案が呼び起こす議論を、美術関係者だけでなく農家のおじいちゃんから子どもたち、学者や政治家に至るまで同じ土俵で、しかも世界共通にできることに意義があります。

実際、アーティストは作品展開する土地についてすごく勉強します。松代の棚田に第1回のシンポルの作品を作ったカバコフも相当勉強していました。あの詩と作品は、機械化される前の農家の姿を思い起こさせて、お年寄りをはじめみんなが共感したんです。作品を協働で作ることもお互いが刺激し合い、地域の魅力を再発見することにつながります。もう一つ大事なのは、アートの空間や意味はそこに行ってみなければ

芸術祭はなぜ必要なのか

決してわからないということですが、それが誘客力につながります。ここに至るまで、皆さんもきつかっただろうし、われわれもそうです。それは今でも変わらないですね。



藤巻 アーティストネットワーク整備事業は準備段階を含めて10年間が経過しましたが、この10年と

いう時間は地域づくりには重要だと思えます。特に現代アートというこれまでかかわったことがない分野だけに、これくらいないと地域に浸透しません。事務局を預かる身としていろいろ

なところで、「この場所での時期にやることに意義がある」ことを説明してまわりましたが、最初は何回言っても理解してもらえませんでした。「そのお金を何で福祉や道路に使わないのか」などかみ合わない議論も相当ありました。こうしたことを乗り越えてきたことで、最初反対していた人が今は作品を守る活動をするなど、大きな財産になってきていると思います。当時のトップ（市長）から、「やりたいようにやれ、あとはおれが責任を取る」と言ってもらったことがあ

子や孫の代には自分の前の風景



広田 最初、県は単に合併させたいただけじゃないのかと疑っていました。だつて（平山）知事が一年に何度

もこの地域に足を運んでいるんだもん、異常ですよ（笑）。現代アートはもちろん北川さんもよく知りませんでした。「この人そんなに実力あるのかな」と思って自分いろいろ調べてみて、「やっぱり本物だ」と分かりました（笑）。このままで地域に新しい産業を起すのは無理だと思っていたので、この際「アート」に乗るしかないと思いました。でも、行政内部でも集落に話を持っていくつも拒否反応だけでした。そこで、住民の中に味方を作ろうと商工会青年部に話を持っ

新しいキーワードが生まれた



押木 平成7年に津南町の苗木の里で合宿しながら、「どういうテーマにするか」を話し合

ったことが印象に残っています。それまでの計画作りはほとんどがコンサルタントを入れてやっていったので、ゼロから自分たちで作り上げる手法は新鮮だったと同時に、かなり悩みもしました。みんな、「ほくほく線開業に合わせ

てインパクトのある事業にしよう」という気概を持っていたと思います。「アート」というテーマに行き着いたときは、「どうなるのかな」という不安と期待が入り交じった気持ちでした。事実、このテーマで先行している

いざ実行した



石澤 津南町の場合はステージ整備にいろいろと課題があつて、その対応に追われていまし

て行き「トリエンナーレの会」を立ち上げました。「現代アートは景観破壊だ」という人には、「あなたには分からなくても、子や孫の時代には当たり前風景になっていくよ」と説得しました。今は、そういう人が最大の理解者になっています。

堀川 芸術祭は、渡辺齊さんと北川さんが突っ走って後から6市町村がくっついていくという構図で始まったと思います。



自分たちの「石の魚」を制作する下条小学校の児童作家：荻野弘一（神明水辺公園/平成12年）



作品を展示した家で家主と談笑する鑑賞者（松代/平成12年）



「かささぎたちの家」作家：金九漢（津南町上野/平成15年）



テーマが「アート」に決まっていた「困った」と思いました（笑）。上司や町長にどうやって

説明していいのかわからず、「建物なんか味付けをするんですよ」と苦しい答弁をしました（笑）。「補助金は大丈夫か？」「知事が後ろ楯だから大丈夫」なんて話もしました。やってみると、案外みんな喜んでくれるんですね。各地区のじいちゃんばあちゃんたちが作家・こへび隊なんかと仲良くなって、訪れるお客さんともすぐに仲良しになるのは驚きました。だから、何万人もの人たちが町中を歩いてくれたんだと思います。松代に関係のある作家が多かったのも幸いだと思います。

そんな代に苦勞はなかった



本山 事業の立ち上げから第2回の開催前まで、ワーキングの中では一番長く担当させても

らいました。松之山の場合は、地域との摩擦も少なくトップの理解もあって、それほど苦労したとは思いません。私自



# 芸術祭を楽しむ③ — 小白倉 — 日本一よらねかの 美しいむらによらねかの

小白倉集落は、平成8年度の「美しい日本のむら景観コンテスト」でグランプリに輝いたところ。民家と野外で展開されている現代いけばな21人の連続個展に合わせて、集落有志が芸術祭も地域も盛り上げる活動を展開しています。

昨年区長だった江口さんは、いけばな美術館の会場受け入れの打診があったとき、「作品がいくつか展示されるだけだろうと軽く考えて」承諾しました。「そしたら、家元さん



隊長の江口通博さん(56歳)は、「もともと外部の人たちを受け入れることに抵抗のないところなので、みんな協力的です。今年の豪雪も、こへび隊の皆さんといっしょにテーマ館になる空家の雪掘りをして切り抜けました。メンバーは今約20人ですが、ムラ全体が気持ちは同じだと思います」と結果がよい理由を説明します。

「じゃあ、そこは草を刈って……」「みんなしてやれば2時間だんが」「飾りは?」「持ち寄るよ……」  
「小白倉いけばな美術館」を「盛り上げながら楽しもう」という有志の会「小白倉芸術祭協力隊」の総会での会話です。鑑賞に訪れた人たちを迎えるための歩道の整備や、特産品販売所設置の話がトントンと進んでいきます。

## 軽く考えていたら とんでもないことに

とかすごい人たちが21人も来るなんてとんでもないことになって、あわてている準備してらんです」と言いながらも屈託なく笑います。  
今年の区長、江口伸一さん(57歳)も、「不安もありますが、これを機会に白倉が少しでも発展するよう、芸術祭を大成功させたいと思います」と張り切り切ります。  
隊では、「作家の提案もあって、集落内の歩道沿い8か所にコスモスの種をまきました(江口隊長)とコスモス街道も整備しました。

来月後半には、日本一美しいむらにさらに彩りを増して輝きます。



コスモスの種まきには、こへび隊も協力しました



## お休み処 よらねかの

「笹には殺菌作用があるので、笹だんごとちまきにしました。試食したらうんまくて、食べ過ぎてしまいました(笑)。

応援隊の女性部(6人)の代表江口克子さん(59歳/写真左から2人目)は、会期中土・日曜日に開店する「お休み処-よらねかの」のメイン商品を決めた理由をそう話します。

江口さんたちは、ほかにも漬け物や赤飯、飲み物なども用意して訪れた人たちをもてなします。「いろいろ手続きは大変でしたが、皆さんが気持ちよく過ごしてくれて、白倉の元気につながればいいなと開店しています」。しめ縄や野菜、錦鯉など白倉の特産品が勢ぞろいする「11月3日(文化の日)の『白倉自慢会』にも、ぜひまた来てほしいです」と期待を寄せます。



## 批評で傷付くのは 元気で傷付くのは

感はありませんでした。むしろ、これといった特徴のない地域に新しい価値を生む可能性があることにかけてもいいのかなと思えました。ただ、そういう考えは地域でも行政内部でも少なかったもので、若手職員の推進チームと住民の推進委員会を立ち上げて具体的なプラン作りにかかわってもらいました。一番ノツてくれた

渡辺(正) 私もうーキングの中で一番良かったせいかわ(笑)、「アート」にそれほど違和感

身、何でもホイホイ受ける人間だし、やれといわれたものを素直にやるという地域性もあるもので、特に大きな問題はありませんでした。ただ、ステージ整備のプランを公募したので、事務手続きが大変でした。  
設置場所は公共施設が多かったのですが作家などと住民との交流は少なかつたように思います。「夢の家」の作家マリーナ・アブラモビッチさんと集落は交流がありました。あと、美人林周辺に作品展開することで自然保護関係者との調整に時間がかかりました。最終的には協力的にかかわってもらうことができました。



数千人の住民が協力して12,000枚以上の布が集まった「ホワイトプロジェクト」作家：新田和成(ナカゴグリーンパーク/平成15年)

のが30代の女性たちですね。作家たちとすぐに仲良くなり、「光の館」の作家ジェームズ・タレルさんにカタクトの英語であれこれ指示までしていました(笑)。今でも、その人たちが陰に陽に事業を支えています。  
つらかったのは、地域の人たちが協力して1,000本もの除伐材を切り出して制作した作品が、「何でこれがアートなんだ」と批判対象の象徴として一部マスコミなどで取り上げられたことです。槍玉にあげられて一番傷付いたのは作家でも関係者でもなく、純粋に好意で手伝った地域住民でした。幸い、今もその人たちは元気に作品制作を手伝っています。

## 地域全体を アートの美術館に

「これからの芸術祭に期待することを一言ずつ

押木 集落がそっくり協力するところが増えているので、メインとなる作品、発信力のある作品をそういうところに配置して、都会や世界に向けてもつと情報発信できると思います。

本山 地域に魅力的なものがいっぱいできました。これをどう維持していくかが課題ですが、歴代の担当者や地域が協力してうまくつないでいってほしいと思います。

石澤 自律の道を選んでいの中で、どうかかわるのかこれからの課題ですが、地域の人たちが楽しみながら盛り上がってほしいです。

堀川 空き家プロジェクトが盛り上がりつつあるので、じいちゃんばあちゃん茶飲み話をうまく結び付けて、素朴な魅力を高めてほしいと思います。

渡辺(正) 第1回から6年が経って、力のある作品は上品な新しい風景を創り出しています。今度は、力のある動きで新しい技やビジネスが生まれるといいですね。

広田 グレードの高い作品が増えてきているので、4回、5回とつな

いで、この地域全体が「現代アートの美術館」になってほしいと思います。

藤巻 行政だけの力では限界があります。親が娘や息子から「面白い」と言われて動き出すようになってきているので、この流れをそのままに、次の10年を新しい枠組みで築いてほしいと思います。

北川 第1回はとにかくやるだけ、第2回で深みが入り、今回は若い人たちが動いて、だんだん良くなってきています。次をどうするかという手を早く打つことが大事で、予算のあり方や観光との仕組みをきちんと位置付ける必要があると思います。

渡辺(音) これまで、北川さんの強烈な個性で引っ張ってききましたが、ここまで頼らなくても地域でできるようなものいいですね。期間中は、人を集めて5回くらいはツアーを組んで来たいと思います。

高橋 3回で培った人の厚みをさらに結び付けて行くことが大事でしょう。浄財を集めて金銭の面でも自立する必要があります。9月10日の閉会式で、「第4回のスタート」を宣言してほしいですね。

芸術祭は始まったばかり。これからの地域のあり方を考えながら、作品や催しを楽しみましょう。

「星の木もれ陽プロジェクト」  
〈木村崇人・日本〉  
もし太陽が星の形をしていたら：世界中の木漏れ日は星の形に変わります。そんな不思議な現象を大地の芸術祭で楽しむことができます。森の中を星の木漏れ日で敷き詰める作品を展開する木村さんは、巨大なラ



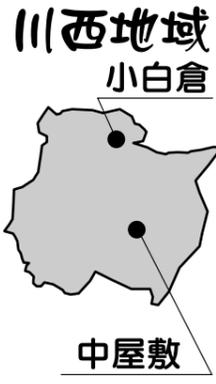
イト（人工太陽）を50トンクレインで森の上につるして、幻想的な星型の光を作りだします。  
木村さんは2年前から妻有地域を訪れ、白羽毛集落の青年会の皆さんとプロジェクトを展開する場所を探し、なかさと清津スキー場付近の雑木林に決めました。そして、7月初旬から高道山地区振興会の皆さんの協力のもとに雑木林の整備を行いました。「雑木林も手入れをすることで気持ちのいい場所になる」と地元の人たちも満足そうです。木村さんも「地元の方々のためにも成功させたい」と意欲を見せています。



### 星の木もれ陽プロジェクト鑑賞会

日時 大地の芸術祭開催期間中 毎週金・土曜日  
午後8時～9時  
場所 なかさと清津スキー場付近の雑木林  
\*小さな穴の空いている物を持参するとより楽しめます。(麦わら帽子、ざる、かご、5円玉など)

「TMR(妻有空港)計画」  
〈田んぼのエアポート〉  
(中屋敷)  
〈朝岡あかね・日本〉  
妻有の田んぼに、光で飛行場を作ってしまうという作品。夏の夕暮れ時に、稲の中から光の滑走路がほ



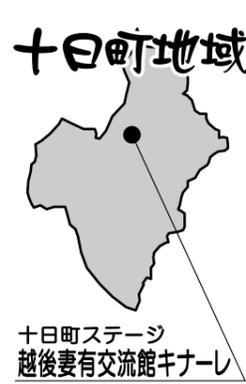
### ラジコンヘリフライトイベント開催

開催日：7月23日(日)、8月6日(日)、8月20日(日)、  
9月3日(日)  
時間：午後1時から5分間、  
会場：中屋敷 小嶋屋総本店付近

「PAPER PROJECT」  
津山の紙―妻有の光―  
(小白倉)  
〈つやま芸術祭推進委員会・日本〉  
この作品は、岡山県津山市の特産品の一つである「横野和紙」で、小白倉の民家の障子を貼り替えるというものです。  
一つひとつ丁寧に作られた津山の和紙に、妻有の光をかざして楽しむという味わい深い作品です。



「こへび物語り」  
ナウイン・プロダクション有限公司  
(ナウイン・ラワンチャイコン)・タイ  
ナウイン・ラワンチャイコンさんは、市内の幼稚園児・保育園児のみならず「こへび物語り」という読み聞かせワークショップを行っています



す。「こへび物語り」は、ナウインさんが作った物語で、越後妻有で育った「こへびくん」が都会に出て彫刻家になるお話です。  
都会で活躍しているこへびくんが、妻有に帰ってきて、今の妻有にびっくりしてしまいます。どんなことにびっくりするのでしょうか？そこからワークショップは始まります。  
芸術祭の会期中、キナーレにこのお話の絵本を展示しています。また、8月20日(日)に「こへび物語り」の発表会もあります。みんな見に来てね！



会期  
2006.7.23sun-9.10sun  
アートトリエンナーレ2006



アートのおもしろさ伝えたい



行武治美「再構築」(十日町)での研修  
武蔵野美大「竹環プロジェクト」(松代)

6月中旬から3回にわたり、主に首都圏の学生たちを対象にした「こへび隊」のツアーガイド研修会が開催されました。研修の目的は、十日町市・津南町に広く展開する芸術祭の作品やイベントについて、鑑賞に訪れた人たちにわかりやすく解説できるよう勉強するためです。  
研修会に参加した延べ50人は、メモをとったりテープレコーダーで説明を録音したりしてコーディネーターや作家の話に熱心に聞き入り、たくさんの質問をしていました。研修会終了後もこれらの記録やテープを何度も確認し、ほとんど暗記するまでに習得するそうです。また、研修会に参加できなかった友人に記録を写したり、ガイドのポイントを教えたりして仲間作りも行われています。これもすべて、来訪者に芸術祭とこの地域への理解を深めてもらいたいという思いからです。芸術祭に出かけてガイドスタッフに気軽に声をかけてください。楽しい会話が芸術祭を一層印象付けてくれます。

# わくわく芸術祭 4

## 大地の芸術祭 公式商品 一斉発売



レポート  
アート  
の汗

### ことば通じなくても 「Ohワンダフル！」

保坂 義為 (74歳 下川手)

25mのはぜ(稲架)を作ってくれて言われたときは、「あいよ」って応えたでも、縦間を75cmで組んでいたらさすがにおっかねえ。だって、足が短いすけ、棒をまたいでも足が届かぬんが。いつもは1人で作るでも、今回は近所の人に手伝ってもらった一そえ。

今でも秋になると4反歩の稲を全部このはぜに架けらーで。こだわりというかやりがいの。それが芸術祭の作品に使われるってすけ、たまげた。ここらにあるがは何でも作品になっちゃうの。

スー・ペドレーさん(オーストラリア)の作品は、赤い毛織物に刺繍したものを、このはぜに掛けて展示しようってが。ムラの人もみんなで手伝った。

6月半ばころから来ているでも、言葉が通じぬがには困ったの。それでも身振り手振りで、何とかはぜが出来あがったときに「Ohワンダフル！」と言ってくれて握手握手。国道353号からもキョロ口からもよく見えるで。おら家の前にあるすけ、見に来てくんねかい。



作品点数、イベント回数とも過去最大級の規模である今回の芸術祭は、数多くの公式商品が販売されていることも特徴の一つです。  
和・洋菓子やお酒などの飲食品、そしてTシャツや手ぬぐい・タオル、トートバッグなどの製品約30種類100点の商品が取りそろえられ、芸術祭の思い出に、またお土産品として人気を呼んでいます。  
公式商品の開発を担当したまつだ農舞台の桑原康介さんは、「これまで実施したアンケートで、公式商品には地域の技術力に芸術祭ならではの驚きや洗練さが加えられた商品が求められていることがわかりました。今回は多くの作家のデザインを取り入れて、商品デザインやパッケージにこだわっています」と意気込んでいます。芸術祭を商機に生まれたこれらの公式商品は、新たなブランドとして展開していきます。

### 公式商品販売取扱店舗

(※店舗は一部商品のみ取り扱い)

- ★越後妻有交流館 キナーレ (十日町)
- ★まつだ農舞台 (松代)
- ★森の学校 キョロ口 (松之山)
- ★当間高原リゾート ベルナティオ (珠川) ※
- ★みよしの湯 (下条) ※
- ★川西トリエンナーレセンター (仙田交流館内) ※
- ★中里トリエンナーレセンター (中里ユーモール内) ※
- ★松代トリエンナーレセンター (松代ふるさと会館内) ※
- ★津南トリエンナーレセンター (大割野商店街内) ※

### 松之山地域



下川手

上勝ヤッホー調査が、松之山にやってくる!

参加者募集!

皆さんは、徳島県上勝町をご存知でしょうか? 「葉っぱ」を料理の「つまもの」として出荷する「いろいろどり産業」を生み出した町です。上勝い

ろどり産業は、この「つまもの」の全国シェア80%を占めており、これに携わっているのは、なんと、80歳代のおばあちゃんを中心です。そして、この元気な上勝町で、今話題を集めているのが、「ヤッホー調査!」。上勝町の地形を生かして繰り広げられている「ヤッホー調査」は、全国ほとんどのテレビ局で紹介されています。今回、この「ヤッホー調査」が「越後妻有アートトリエンナーレ」にデビューします。上勝町の「山彦認定士」が、松之山の豊かな自然を相手に、皆さんに「ヤッホーの極意」を伝えます。



山彦認定士から指導も受けられます

- 開催日時: 8月19日(土) ①午前10時~正午 ②午後3時~5時
- 集合場所: 「森の学校」キョロ口駐車場
- 参加人数: 15人/回 事前に申し込みが必要
- 参加費: 500円 (保険料。上勝ヤッホー地図をプレゼントします)
- 内容: ●山彦認定士の講習 ●ヤッホー調査 (おもしろい道具も使用) ●参加者が見つけた「ヤッホーポイント」に好きな名前を付けることができます!

問合せ・申込み まつだ農舞台 ☎595-6180

### 松代地域



室野

「天竺」

〈豊福亮・日本〉

一見どこにもありそうな古い建物。しかし、扉を開け一歩室内に入ると宮殿のような装飾を施した部屋が訪れた人を包み込む。日常とは違ったおどろきを感じさせる作品です。

室内では、素朴な室野の雰囲気から想像もつかない色彩のコントラストが、異国の地に迷い込んだような不思議な気分を誘います。



古民家とアートとの融合が生む、外観と豪華な室内とのギャップを楽しんでください。

### 「影」/来し方行く先

〈大谷俊一・日本〉

大谷さんは豪雪だった今冬に、室野集落約130戸全ての家を訪れて、明治から昭和までの古い写真を約1,300枚集めました。この写真を透明フィルムに印刷して建具にはめ込み、昔の室野の風景と今の風景の違いから時の移り変わりを感じてもらおうという作品です。

大谷さんは「昔を思い起こしながら、多くの会話に花が咲くというのですね」と、コミュニケーションのきっかけ作りに思いを寄せます。



室野集落の人たちはもちろん、初めて訪れた人も楽しめます。写真から写し取る、過去と現在の交差点。慣れ親しみ、思い出深い。記憶がアトによつてよみがえります。

# 基本構想を策定しました 3

今回は、市の将来像「雪・自然・農が織りなす温もりと躍動のまち」を実現するための、分野別施策を構成する5つの基本目標についてお知らせします。なお、市報では一部しか紹介できませんので、詳しくは情報館や図書館、公民館、市のホームページなどで確認してください。

## 基本目標1

### 地域に誇りと愛着を持つ 創造性豊かな人づくり

新しい時代のまちづくりを担うのは市民一人ひとりです。地域に誇りと愛着を持ち、知恵と協働でまちづくりに取り組むことにより、地域の魅力や価値を高めていくことが大切です。市民が生涯にわたり、あらゆる機会を通じて学ぶことができるよう、学校教育・社会教育・芸術文化活動・スポーツ活動などを生涯学習の視点から充実させ、ふるさとを愛する創造性豊かな人づくりを推進します。

## 基本目標5

### 人・自然・産業とふれあえる、もてなしの心で迎える 体験交流づくり

自然や歴史などのさまざまな観光資源とともに、地域に住む人々とのふれあいや心の温もりも観光地としての魅力の一つです。市民一人ひとりが「もてなしの心」で来訪者を温かく迎え、多くの人とふれあえるよう、自然資源や農業などを生かした体験型観光の推進、交流イベントの実施、都市農村交流の推進などを図ります。

## 基本目標2

雪国文化や地域資源を活かした活力ある産業づくり

問合せ 総合政策課企画政策係  
☎757-3111  
(内線229)

## 基本目標3

### 緑豊かな自然環境や雪国の風土と調和した 快適な生活環境づくり

地域の財産である豊かな美しい自然環境の保全を図り、森林や雪を生かし市民にとって快適な生活環境の整備を推進します。道路網や上下水道などの整備を進めるとともに、克雪対策の一層の充実を図ります。また、時代に対応した高速情報通信網の整備や公共交通機関の確保などにより、市民生活の利便性向上を図ります。

## 基本目標4

### 子どもからお年寄りまで安全・安心・元気に暮らせる社会づくり

市民一人ひとりが、健康づくりに意欲的に取り組み、健康で充実した生活を送ることができるよう、心と身体の健康づくりの推進と保健サービスの実現に取り組むとともに、病気になっても地域で早期治療が受けられる体制を整備します。新潟県中越大地震による被災者の生活再建や被災地の速やかな復旧により、市民生活の早期の安定を図るとともに、復興をとおして、震災の前にも増して活力にあふれるまちづくりを推進します。

# 地域協議会によるまちづくり ①

昨年の市町村合併を機に、十日町地域協議会が旧市町村単位で5つ設置されました。地域協議会は、地域づくりの推進役として、市民と行政による協働のまちづくりを行う市の附属機関です。

## ●設立までの経緯

地域協議会が設置された背景として、①市町村合併で行政範囲が広域化したこと、②少子高齢化により低下している地域力を再構築し、持続可能な地域づくりが求められていること、③行政のスリム化が求められる中、公民協働の公益活動がますます重要度を増していることなどがあげられます。

## ●地域協議会の主な役割

◆その1 どのようなまちづくりをしたいかを決めます

◆その2 市民と行政が協力して公共的課題に取り組みます

◆その3 市総合計画など重要な将来計画について話し合います

◆その4 公の施設の設置や廃止について話し合います



第1回十日町地域協議会の様子

## ●地域協議会の内容

◆名称 十日町地域協議会、川西地域協議会、中里地域協議会、松代

問合せ 総合政策課行革協働係  
☎757-3111  
(内線232)

# 利雪。楽雪踏み出す一歩

体育館わきにうずたかく積まれた雪の山。真夏の活躍に備え、外側を断熱材で大切に包まれています。

県立松代高等学校（佐藤謙一校長）では、雪の冷熱を利用した冷房実験の取り組みが進められています。生徒自らが雪冷房の導入に取り組むことで、雪を新エネルギーとしてとらえ、その資源性や環境について学ぼうという試みです。



簡易型雪冷房装置の完成

## 雪を利用する意識の転換

このプロジェクトは、県十日町地域振興局の「楽雪意識の普及啓発事業」と松代高校の「雪冷房プロジェクト」の協働で進められています。生活にはやっかい物の雪を活用することで、雪の楽しさや利点を見いだそうと、昨年度から進められました。昨年12月10日、同振興局の主催で開催された「雪から学ぶ楽雪フォーラム2005」で、利雪・克雪に取り組む地域の実践例や北海道岩見沢農業高校・沼田高校の生徒たちによる雪利用についての活動報告が行われました。また、松代高校が進めていた雪冷房プロジェクトについての計画も発表されました。「岩見沢農高や沼田高の取り組みを聞いて、私たちも頑張ろうって思いました」と松代高校生徒会長の樋口玲奈さんはフォーラムを通して、同校の雪利用への機運が高まったと話します。

雪を利用した冷房システムは、一般住宅や農業施設、保冷倉庫などあらゆる用途に研究が進められ、導入されています。今回、松代高校で実験を進めているのは「簡易型雪冷房装置」です。製造コストも安く移動もでき、手軽に利用できることから、

使い勝手のよい冷房装置として期待されています。簡易型雪冷房装置は（財）雪だるま財団（上越市安塚区）の伊藤親臣さんの指導のもとに、8台が製造されました。

この装置は、プラスチックコンテナに詰められた雪の冷気が、上部に取り付けた送風ファンで噴出する仕組みで、水分を含んだやさしい空気がじんわりと教室を包み込みます。

今年4月、国道253号に面した体育館わきに、地域の建設業協会の

協力を得て高さ5mほど、約100トンの雪山が築かれました。そして、夏の高温にも耐えられるように全校生徒の手作業で、もみ殻や断熱シートで囲い、飛散を防ぐためにブルーシートで覆いました。使ったもみ殻は270袋、断熱シート、ブルーシートともに約300㎡。特に労を費やしたもみ殻の運搬には後援会や同窓会のOBが協力してくれました。

作業にあたった同校後援会長の高橋芳平さんは、「クリーンエネルギー1・省エネルギーと、環境問題に即した大切な取り組みです。私たちOBも母校のために協力したいです。今後も試行錯誤を繰り返しながら、ぜひとも成功に結び付け、松代高校のPRにつなげてほしいです」と実験の成果に期待を込めます。

7月4日(火)、いよいよ運転開始です。雪山からプラスチックコンテナに雪が詰められ、教室まで運びます。力仕事はもっぱら男子生徒の役目です。装置にセットされてスイッチON。教室にセットされた4台のファンの口先から、にわかに冷気が漂います。生徒たちは期待と心配の入り混じった面持ちで装置を囲んでいました。

## 雪と向き合う果てない挑戦

「初めての実験にしては効果がありました。今のところ室内は24〜25度の室温が保たれていて快適ですが、真夏にどうなるか今後観察が必要です。体育授業の後には雪冷房を囲むようにみんな集まって、クラスが和やかになります」と思わぬ効果に笑みを浮かべる樋口さん。副生徒会長柳鮎美さんは、「雪解け水の処理方法や1回で3時間ほどしか持たないなど課題がたくさんありました。実用化に向けてはまだまだ検討を重ねなくてはなりません」と次回以降へ希望を膨らましています。

佐藤校長は、「雪も利用しただけで役



全校挙げて雪山を保冷剤のもみ殻で覆う



雪の詰め込みは寒ささえ感じる



冷房装置のファンの取り付け

に立つということを実感できると思います。自然環境を生かし、いかに生活に取り込むか、この試みをおして学んでほしいです」と生徒の活動を見守っています。

様々な課題に直面しつつ雪冷房に取り組む松代高校。それらを克服しながら、雪を資源として利用していくことは誰も抱いた遠い昔からのあこがれです。多くの先人が様々な試み、着実に利用へと結びつけている新エネルギー「雪」。雪国の永遠のテーマとして、また、豪雪地に生きる者の果てしない挑戦として、今後の成果に期待が持たれます。

# まつだいたい

## ステーション

松代支所  
☎597-2220

### 仲良く 楽しく 生き生きと 松寿大学

松寿大学（美濃和英学長）は、松代地域の高齢者を対象とした生涯学習団体です。昭和56年から公民館事業として始められた『高齢者教室』をもとに、参加者自らの運営を目指すため、平成3年に設立されました。学長や理事職を置き組織作りをし、校章や校歌も作って、学び舎としての風格を整えました。現在の生徒数は118人。4月から11月まで毎月開講され、午前中は、専門講座とし



松代松寿大学講演会

て書道や俳句など6講座、午後からは一般教養講座としてさまざまな分野の講師を招いて講演を行っています。また、研修旅行や文集「いろり」の発行などを行い、学生が互いに自己研鑽に励んでいます。また在学5年で学士号、10年で功績賞、15年で褒賞状が授与されるなどユニークな制度もあり、大勢の高齢者が長く続けられるよう工夫されています。

6月28日(水)の松寿大学では、同大学の校歌を作曲した鈴木栄太郎さん（市文化財保護審議会委員）による講演『古文書にみる松代の江戸時代』が開催されました。鈴木さんが古文書の研究中に偶然発見した、天保の大飢饉により両親を失い数奇な運命をたどった少女の話をとおして、当時の松代地域の苦しい生活の様子や文化・風俗について詳しく説明しました。講演後は、「松代にはいつ頃から人が住み着いたのか」などたくさん質問が出されていました。いくつになっても学ぶ心を持ち続けようと、松寿大学はいつも高齢者の元氣な笑い声で盛り上がっています。

# ながまつクラブ通信

中里支所  
☎763-3111

## 初夏のランドマークツアー

6月25日(日)、なかさと清津観光協会主催のランドマークツアーが開催されました。今回のコースは高道山体育館をスタートし、市之越の農道から河岸段丘を望んだ後、倉俣大橋を通り、道沿いの大地の芸術祭作品を鑑賞。牧畑トンネルを抜け、清津峡温泉まで歩く約14kmのコースです。当日は絶好のウォーキング日和となり、小学校1年生から70歳代までの総勢12人の参加者は、清津川の対岸に見える景色を楽しみながら、心地よい汗を流しました。ツアーの最後には、清津峡温泉せとぐちの湯で一日の疲れをいやしました。



秋のランドマークツアーでは、当間山コースを予定しています。

## 来てみねかの!

7月30日(日)から10月29日(日)にかけて、中里のうんめえ～もの、手作りのものを販売する「あちこたね市」が開催されます。地元のお母さんたちが中心となり、直売所を始めます。皆さんのお越しをお待ちしています。



実施日 7月30日(日)  
8月6日(日)  
10月8日(日)  
10月15日(日)  
10月22日(日)  
10月29日(日)

時間 午前10時から正午

場所 ユーモール玄関前

主催 中里あちこたね市の会

問合せ 中里支所自治振興係  
☎763-3111

## 松代の自然

### イツツバメ

まつだいたい雪国農耕文化村センター「農舞台」のレストランで、広いガラス窓から洩海川の急流を眼下に見下ろしていたところ、盛んに飛び交っているツバメの背中の一部が白いのに気付きました。



イツツバメです。鋭い口笛のような声で鳴き交わしながら軽快に飛翔しますが、ときおり『城盗り橋』の下に入ります。彼らの巣は橋の下に

「みやまの会」は平成5年ころから活動を始め、ゆくら妻有の収穫祭や雪原カーニバルに屋台を出しています。ほかにも、道行く人々に安らぎを与え、住民が環境美化に関心を持ってもらえたらという思いで、国道117号沿道に花やほうき草を植える活動もしています。最近では、震災で壊れた田沢本村の虚空蔵菩薩

懸けられ、そこから出入りしているようでした。

イツツバメは普通のツバメよりやや小型で、尾の先が二股に分れていないうえ、前述のように背中から腰の辺りが白いので簡単に見分けられます。

以前には奈良立の『城川橋』の下で繁殖したことがあり、そこからこちらに移動したのかもしれない。これからも観察を続けてみたいですね。

高原地帯の建物には普通のツバメよりイツツバメの方が多く見られます。

(文 高橋八十八)

## イチゴいっぱいとれたよ!

6月30日(金)、松代保育園の年長組21人が、今年も斉藤国平さんのイチゴ畑で、イチゴ狩りを楽しみました。

このイチゴ畑は、斉藤さんが定年退職を機に、保育園児に楽しんでもらおうと植栽したものです。この日のために、斎藤さんと奥さんの二人は鳥獣にイチゴが荒らされないよう畑の周囲と天井をネットで覆うなどの手間ひまをかけてきました。

園児たちはマイクロバスで田野倉地内のイチゴ畑に到着すると、斉藤さんの奥さんから摘み取りの指導を受けた後、甘い香りが漂う畑にバケツとハサミを持って畑の中へ。「赤いのがあった!」「大きいのがあった!」と歓声を上げ大喜びでイチゴを摘み取っていました。



イチゴと一緒に記念写真

## 中里の がらぼー いるぜの!

あわてることなく、  
ゆっくりと  
田沢本村 みやまの会

「みやまの会」は田沢本村の40歳から60歳の15人で結成されています。「前はみんな地区青年会のメンバーです。青年会を卒業すると、仲間とゆっくり話をする機会が少なくなってしまう。仲間と話をしていながらお酒を飲む機会を増やしたい、そんな気持ちで集まりました」と話すのは、会長の村山勝利さん。

公園の水飲み場の上屋移築工事や十三仏復旧工事も行いました。公園を整備することで、子どもたちが遊べる場、住民たちの憩いの場となり、それが地域の活性化につながればと考えています。

村山さんは、「地域の人たちからの期待を感じたときに充実感、満足感を覚えます。これから先も、あわてることなくゆっくりと仲間たちと時間を過ごしたいですね」と語ります。

「みやまの会」は仲間との時間を大切にしながら、地域の活性化を目指して自分たちができることを考えています。



国道117号沿道に花を植える



中条中学校 1年1組 13

こんなクラスにしたいという思いを込めて、一人ひとりが考え、グループで話し合い、そしてみんなで決めたクラス目標は「全力勝負～みんなの心に花咲かす～」。男子19人・女子19人の1年1組は、男女がとても仲良しで、明るく活発なクラスです。初めての中学校体育祭に向けて、ただ今勝つための戦略を思案中！



**庭野圭一郎さん**——元気で明るいクラスです。みんなが積極的に手を上げて発言します。ときには度を越してふざけ過ぎ、反省することもありません。初めての体育祭がもうすぐなので、今からとても楽しみです。応援リーダーになったから、大きな声で思いきり応援します。合唱コンクールでは、学校代表になれるように頑張ります。

**高野敦子先生**——話し合いがともまうまいクラスだと思えます。自分の意見を言えるし、人の意見を聞くのも上手なのでスムーズに進みます。やさしい気持ちの生徒が多いですね。これから先、いろいろな学校行事を経験したり、部活動をしたりしていく中で、やさしい気持ちを言葉や態度で表現できる2年生に育ってほしいと思います。

# おーい！ 昔

## 「殿様塚」の巻 (荒屋)

今からずくつと昔のこと、荒屋に源三という元気のいいジサが住んでいました。ジサが山で開墾していると、「オッン」というすごみのある、それでいてもの悲しげな声が聞こえてきました。「はて、この真昼なか『山の殿様』が出るわけがねやんだがな」と、源三ジサはまた仕事にとりかかりました。



するとまた「オッン」という声が出て、ジサの前に子牛ほどもある大きな山犬が姿を現しました。「山の殿様」です。源三ジサはびくつき、源三ジサはまた仕事にとりかかりました。

てくるんじゃねぞ」と教えさすとすように言うと、山の殿様は、何度も振り返りながら森の中へ消えていきました。その年の暮れ、源三ジサが冬の買い物を済ませた帰り、

息を引き取りました。源三ジサは、命と引き換えに恩返ししてくれた山の殿様をねんごろにほうむり、そこは「殿様塚」と呼ばれるようになりまし。

はふびんに思い、クワを手から放して足を山の殿様の顔にかけ、骨を力いっぱい引っぱりました。ごよつと変な音がして骨はとれました。ジサが「ほら行け、へえ人の前に出

冷たい風が吹き抜ける林の中に入ったときです。「ウォーッ」とほえながらオオカミの群れが襲ってきました。ジサは荷物を下ろし、手にした杖を握り直して身構えました。オオカミが一斉に飛びかかろうとしたその瞬間、「ウォオオオ」というものすごいほえ声とともに大きな山犬が飛び出してきました。あの山の殿様です。オオカミたちが一瞬ひるんだすきに、山の殿様はジサを逃がし、オオカミの群れに飛び込んで行きました。

# 光ケータースルネットワーク

VOL.4  
問合せ 課 係  
総合政策 係  
情報 757-3111  
757-3111 (内線233)

## 第1回十日町市 情報化推進会議開催

7月14日(金)、十日町保健センターで第1回情報化推進会議が開催されました。

**委員長に澤村新潟大学 経済学部助教授を選任**  
正副委員長の選任では、市長を仮議長として選考が進められ、委員長には有識者として委嘱された新潟大学経済学部助教授の澤村明氏が選任されました。澤村さんは、ボランティアやNPOなどの理論的分析や、まちづくりなどによる「地域の諸問題の解決」の研究が専門です。また、コンピュータネットワークの活用にも詳しく、まちづくりとパソコン通信の関係など、コンピュータ関連の著書を多数執筆しています。また、副委員長には、十日町商工会議所から推薦された樋口誠氏が選任されました。樋口さんは、十日町商工会議所常議員、水沢振興会長を務めているほか、今年1月から6



説明に耳を傾ける40人の委員

月末まで市が設置した「情報化有識者懇談会」の座長も務めました。

**●市の情報化推進の 基本的な考え方などを説明**  
会議では、報告事項として、①平成14年から現在までの地域情報化の経過、②地域情報化有識者懇談会からの提言が報告され、確認事項として市の地域情報化の基本的な考え方(放送と通信による情報化推進)が説明されました。また、協議・検討事項として①各家庭まで整備する光ケーブルの整備方法と運営のあり方、②告知端末機の全世帯配置から希望配置への変更などが説明されました。今回は、時間の関係上、説明に終了しましたが、次回からは協議・検討事項として、説明内容について具体的な議論が行われます。なお、委員名簿、第1回会議録(要約版)は十日町市のホームページ (<http://www.city.tokamachi.niigata.jp>) に掲載されています。

※次回は、有識者懇談会からの提言についてお知らせします。

# なつぞら、あつぞら



## アートの夏が来ました

暑い夏がやってきましたが皆さんお元気のことと存じます。さて7月23日(日)から9月10日(日)までの50日間にわたる「大地の芸術祭」が開幕しました。3回目の今回は、今までの恒久作品と合わせて330もの作品を鑑賞することができます。

「人間は自然に内包される」という基本理念に基づく作品が、里山の自然や人々の生活の中に息づくように展開されています。地域の魅力づくりのために、地元の大勢の皆さんもいっしょに汗を流しており本当に感謝しています。

これだけの規模は類がないことから、全世界から注目を集めています。

郷土の魅力づくりのために、皆さんもぜひ作品鑑賞に出かけ、新しい十日町市・津南町を発見してほしいと思います。

また、今回は今までになく多くの人たちが入り込むことになりそうです。市民の皆さんも、市外からの来訪者を温かく迎えてほしいと思います。何も特別なことはする必要はありません。「よく来てくれたの」と、普段どおりのもてなしの気持ちでいさつするだけでいいと思います。それだけで、ふれあいがあるとんぼん広がっていくと思います。

7月29日(土)からは第12回十日町彫刻シンポジウムが始まります。3人の気鋭の作家が8月20日(日)までと留して作品制作に励みます。石という固く無骨な材質から心なごむ作品が生み出されるまでには、作家と石の「格闘のドラマ」が展開されます。こちらにも、ぜひ足を運んでみてほしいと思います。

芸術の秋とよく言いますが、ここ十日町は「アートの夏」一色です。ともに汗流してともに感動しましょう。



### クロアチア現代絵画展

7月5日(水)～19日(水)の間、情報館でクロアチア現代絵画展(第3回大地の芸術祭協賛事業)が行われました。会場には、クロアチアを代表する作家32人による内戦の悲劇を描いた絵や、隠し絵、ポップアートなど多彩な作品58点が展示され、訪れた市民は1点1点丁寧に鑑賞していました。5日に行われたオープニング式典では、在日クロアチア大使館からナターリヤ・ブルンボタ公使参事官が出席し、田口市長などとともにテープカットを行いました。参事官は「今回の絵画展をとあして、両国の相互理解と友好関係がさらに広まり、日本とクロアチアのきずながさらに強まることを確信しています」と述べました。会期中、絵画展には約1,300人が訪れました。

**おり姫とひこ星の愛の  
ストーリーin駅通り**

毎年恒例となった駅通り七夕まつりが、7月7日(金)・8日(土)開催されました。通りには、大型で色鮮やかな七夕のイルミネーションや、市内の幼稚園や保育園児の願いが書かれた短冊が飾られました。お天気に恵まれた両日は例年以上の人数でにぎわい、輪投げや風船つりなどでまつりを楽しんでいました。また、今年も林剛人丸さんなど大地の芸術祭の作家が参加したほか、筑波大学の留学生も参加し、祭りに華を添えていました。



### 十日町商工会議所新会館「エコマル」完成

7月7日(金)、十日町商工会議所の新会館が駅通りに完成し、しゅん工記念式典が行われました。十日町商工会議所は、一昨年の中越大地震で甚大な被害を受け、解体撤去を余儀なくされました。クロス10に仮事務所を移し、昨年9月に新会館建設に着手。総事業費3億6千4百万円をかけての完成となりました。式典の中で吉澤慎一同会議所会頭は、「震災から1年9か月足らずで新会館のしゅん工の日を迎えることができたことは、生涯忘れられぬ喜びである。これを機に地域経済のさらなる活性化に尽力したい」とあいさつしました。

また、商工会議所新会館完成に合わせ、お得なクーポン券付きフリーペーパー「はいこんちよ!」が創刊。来年3月まで6回発行されます。



## まちの話題 TOWN TOPICS

このコーナーは、まちの話題や活動などを紹介しています。情報がありましたら、総務課広報聴係(☎757-3111内線213)へ、お気軽にお寄せください。

### 充実の芸術協会会員展

7月8日(土)・9日(日)、市民体育館で十日町市芸術協会(小林順二会長)主催の第15回十日町市芸術協会会員展が開催されました。日本画、洋画、版画、現代美術、彫刻、工芸、写真の7部門に、昨年よりも20点以上多い210点の力作が集まった今年の展覧会は内容も充実。鑑賞に訪れた人たちは、熱心に作品に見入っていました。美術館建設チャリティのための小品展も人気で、絵画や工芸などの作品に早々と売約済みの表示が付けられていました。小林会長は、「合併して市も広くなりました。機会があれば川西、中里、松代や松之山などに出張展も実施したい」と意欲をにじませていました。

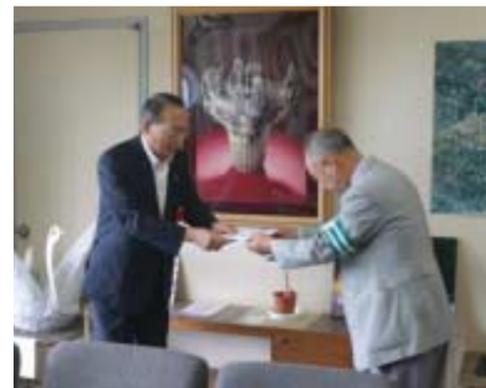


**巨大アンパンマン出現**

7月6日(木)、角万寺スキー場(中屋敷)に巨大アンパンマンが出現しました。これは、同スキー場管理組合(小林正夫代表)が、芸術祭を訪れる人に越後妻有の自然を知ってほしいと制作したもので、題して「アンパンマン森を守る」。小林さんは、「丸みを現すのに苦労しました。これをきつかけに子どもたちが自然に親しんでくれるといいですね」と話していました。大手保育園から集まった約60人の園児は、絵を眺めたり両わきのプランコで遊んだりしていました。

### キルト・タペストリーに 震災復興への思いを託して

7月7日(金)、中越大地震キルトタペストリー「裂ける大地・輝く明日」の除幕式が、十日町商工会議所で行われました。このタペストリーは、キルトーズの会(田口節子代表)が、震災で大きな被害を受けた人たちの心を支え、明日に向かって生きる勇気を持ってほしいとの願いを込めて作成したものです。原画は二科展入賞画家の藤田美智子さん(市内南新田町)が描き、材料は全て十日町紬を使用。30人で1年半をかけ、横4m・縦2mの大作の完成となりました。今後は十日町商工会議所青年部研修室に常設されます。



**十日町安協カーブミラー贈呈**

7月7日(金)、(財)十日町地区交通安全協会(児玉昭一朗会長)から、事故防止対策の一環として、市へカーブミラー35基が贈呈されました。今冬の豪雪の影響で、市内の約160基のカーブミラーをはじめガードレールなどの交通安全施設は大きな被害を受け、安全性確保の観点から早急な対応が求められていました。児玉会長は、「今まで、こうしても、という市民の要望に応えるために有意義に活用し、交通安全に役立ててください」と田口市長に目録を手渡しました。

とつさの手当てが生命を救う  
赤十字救急法救急員  
養成講習会

日常の知識・技術として、救急隊が到着するまでの応急手当の方法を身につけておきましょう。

●日時 8月2日(土)・3日(日)・9日(土)・10日(日)午前9時30分〜午後5時30分 ●会場 水沢公民館 ●受講資格 満15歳以上で全日程を受講できる人 ●受講

**第51回原水爆禁止十日町市民大会**

●日時 8月6日(日)午前8時〜 ●会場 キナーレ平和の火前 ●問合せ 原水爆禁止十日町市協議会事務局(防災安全課防災安全係内、内線172)

GUIDE 催し

**GUIDE**

お知らせ・ガイド  
市役所 TEL 757-3111

子ども会活動などにもご利用ください。

●日時 8月20日(日)午後5時(十日町駅集合) ●行き先 しまつだいの芝峠温泉雲海 ●参加費 小学生以上700円(往復運賃、弁当代、保険料) ※未就学児500円 ●定員 先着80

**第20回真夏の雪祭り**

真夏の雪上ゲームを楽しみませんか。大地の芸術祭作品も鑑賞できます。

●日時 8月13日(日)午前10時30分〜午後2時 ●会場 大蔵寺高原 ●内容 雪上綱引き・パン食い競争・岩魚つかみ捕りほか ※参加受付は当日 ●問合せ 松之山観光協会(☎596-3011)

**星空観察会inまつだいのほくほく線ゆめ空号で行く**

料 3,000円(テキスト教材費・保険料) ●講師 日本赤十字社救急法指導員 ●定員 先着30人 ●内容 蘇生法、AED、包帯法、止血法など ●資格交付 全日程修了者に修了証。全日程修了者で学科・実技の検定合格者に赤十字救急員適認証(3年間有効)を交付 ●申込み・問合せ 日本赤十字社十日町市地区(社会福祉協議会内 ☎750-5010)

**第3回釣り教室**

用具、えさは各自で持参してください。 ※仕掛など現地販売あり ●日時 8月6日(日)午前9時〜正午 ●会場 ゆくら妻有裏

**わたしの主張06 十日町・中魚沼地区大会**

中学生が毎日の暮らしの中で感じたことや考えていることを発表します。

●日時 8月11日(金)午後1時30分〜 ●会場 市民会館 ●入場料 無料 ●問合せ 十日町地域振興局健康福祉部(☎757-2400)

**郷土芸能 石場かち・からす踊り交流**

水沢地区伝統芸能保存会設立10周年記念事業として、市内外の芸能団体などが集まります。

●日時 8月6日(日)午後7時〜9時30分 ●会場 水沢小学校グラウンド ※雨天の場合同小体育館 ●問合せ 水沢公民館(☎758-3101)

**草木友禅染めの世界**

キナーレきもの歴史館

●会期 9月10日(日)午前10時〜午後6時 ●会場 キナーレきもの歴史館 ●入館料 大人300円、中学生100円、小学生以下無料 ※大地の芸術祭バスポート持参の場合は無料 ●問合せ キナーレ(☎752-0117)

**石彫クイズ&スタンプラリー**

彫刻のある道を歩いてみませんか。抽選で100人に商品券をプレゼントします。

●期間 7月29日(土)〜8月11日(金) ●応募方法 中心市街地石彫マップに掲載している62作品を6つのグループに分け、それぞれのグループのクイズの回答とスタンプを集めて応募する。 ●応募用紙・応募箱設置場所 ①メンスシヨップアカクラ ②小嶋屋 ③クロス10 ④かみつね ⑤共立観光 ⑥十日町商工会議所 ⑦ほくほく線十日町駅 ●問合せ 十日町商工会議所 TMO事務局 ☎757-

**「森の学校」キヨロロ 巨大昆虫探査艇キヨロロ号**

5111

33種の昆虫の写真を人間の背丈ほどに拡大した展示会です。

●期間 10月1日(日) ●会場 「森の学校」キヨロロ ●入館料 大人500円、小・中・高校生300円、幼児無料 ●問合せ 「森の学校」キヨロロ(☎95-8311)

**第16回美術鑑賞ツアー**

福島県内の文化施設「諸橋近代美術館」と「福島県立博物館」を巡ります。 ※詳細チラシは中央公民館に配置 ●日時 9月3日(日)午前6時〜午後8時 ●定員 先着80人 ●参加費 10,000円

**第28回おかめ市 ゆかたでおいでよ コモ通夏祭り**

楽しい催し物がいっぱい。フリーマーケット出店者も募集中です。午後7時〜ベストパートナーのライブもあります。

●日時 8月5日(土)午後5時〜10時 ●会場 コモ通り歩行者天国 ●申込み・問合せ 青山商店・鈴木(☎752-2191)

**未来へつなごう 国宝出土記念日**

7月8日(日)、昭和57年の同日に国宝火焰型土器が出土した笹山遺跡(中条上町)の一角で「国宝出土記念日の集い」が行われました。これは、新潟県唯一で縄文土器としては初めて国宝に指定された笹山遺跡出土品928点のうち、No.1と呼ばれる火焰型土器が出土した日を記念日として継承していこうと笹山縄文倶楽部(岡田稔会長)が開いたもので、会員や当時発掘に携わっていた人など約20人が出席しました。笹山ムラの先人に感謝し供養をするための法会が行われた後、「No.1出土! そのとき歴史は動いた」と題して、発掘を担当した阿部恭平さんによる講話があり、出土したときの状況が臨場感豊かに語られました。その後、全員で縄文料理を楽しみ往事をしのびました。



未来へつなごう 国宝出土記念日

7月14日(金)、上越市の中川周一助役(右)が来市し、上越市立水族博物館ほか4施設の無料招待券約14,000枚の目録を大島助役に手渡ししました。ほくほく線沿線地域の活性化のために行われた今回の贈呈に、中川助役は、「ほくほく線の利用促進のため、子どもたちから夏休みにぜひ上越に来てほしい、水族館や海で夏の思い出を作ってほしい」と話しました。招待券は市内の幼稚園・保育園児と小・中学校の児童・生徒全員に配布されます。



ほくほく線で上越へ行く!

7月14日(金)、上越市の中川周一助役(右)が来市し、上越市立水族博物館ほか4施設の無料招待券約14,000枚の目録を大島助役に手渡ししました。ほくほく線沿線地域の活性化のために行われた今回の贈呈に、中川助役は、「ほくほく線の利用促進のため、子どもたちから夏休みにぜひ上越に来てほしい、水族館や海で夏の思い出を作ってほしい」と話しました。招待券は市内の幼稚園・保育園児と小・中学校の児童・生徒全員に配布されます。

**心を一つに ながなわとび大会**

7月7日(金)、松之山体育館で第19回ながなわとび大会が開催されました。この競技は12人でチームをつくり、跳んだ回数を競います。今年も学校や地域、職場などから21チームが参加しました。回し手の号令で次々とジャンプ回数を重ねて行くチームもあれば、残念ながら一回もジャンプできないチームもあり、応援席からは歓声が上がっていました。熱戦のすえ、みごと84回跳んだ湯山チームが、第1回からの出場以来初めての優勝に輝きました。



tokamachi topics

にぎわいに雨も止んで 十七夜まつり

7月16日(日)、17日(月)に千手観音(伊友)の十七夜祭りが開かれ、約7,000人の大勢の人出がありました。1,200年以上の歴史があり、征夷大将軍坂上田村麻呂ゆかりの京清水寺の本尊と姉妹仏という縁起を持つ千手観音は、古くから信仰を集めてきました。特に、例大祭である十七夜祭りは、昭和30年代ころまでは着飾った馬の行列や草競馬などで大盛況でした。今は宵祭りの16日夜が最も華やかで、参道に露店が立ち並び、境内では歌謡ショーが繰り広げられるなど、別世界の一夜を彩ります。今年是小雨模様でしたが、人出のピークには雨も止み、浴衣姿の家族連などでにぎわいました。



00円(当日徴収) ●申込み 8月15日(火)までに、住所・氏名・生年月日・電話番号・同じバスに乗りたい人の名前を書いたはがきを中央公民館(〒948-0022)学校町1「美術鑑賞ツアー係」に提出 ●問合せ 市芸術協会事業部・宮沢健二(☎090-9630-4946)

枯木又のつとこい寄席

●日時 8月26日(土)午後1時40分 ●会場 枯木又分校 ●入場料 高校生以上1,500円 ●出演 桂梅團治(上方落語真打) ●問合せ 山田(☎090-2316-4584)

清水光枝と仲間たちのパッチワークキルト展

●期間 8月13日(日)~18日(金) 前9時~午後8時 ●会場 南魚沼市民会館(六日町) ●入場料 無料 ●問合せ 清水(☎090-2333-6328)

1Hクッキングヒーター体験料理教室

【夏休み】親子で楽しむHクッキング教室 ①チキンカレーと黄色いごはん、ごちそうサラダ、ふわふわフルーツゼリーなどを

手当を受給している人は「所得状況届」の手続きが必要です。必ず本人が届出を行ってください。遅れると8月以降、手当を受けられなくなることがあります。 ●持参するもの ①証書 ②印鑑 ③現況届 ●期間 児童扶養手当 8月1日(火)~31日(木)、特別児童扶養手当 8月11日(金)~25日(金) ●提出・問合せ 児童扶養手当・保険年金課年金係(内線168) または各支所市民生活課、特別児童扶養手当・福祉課 障害福祉係(内線142) または各支所健康福祉課

ひとり親家庭等医療費受給者証更新のお知らせ

ひとり親家庭等医療費受給者証の交付を受けている人は、毎年更新の手続きが必要です。手続きをしないと、医療費助成が受けられなくなる場合があります。更新が必要な人には、後日通知しますので、期間内に市役所本庁または支所で必ず手続きをしてください。 ●持参するもの ①市の通知文書 ②受給者証 ③印鑑 ④医療保険証 ●期間 8月1日(火)~31日(木) ●提出・問合せ 健康支援課地域医療係(内線127) または各支所健康福祉課

作ります。 ●日時 8月11日(金) 午前10時30分~午後1時 ●会場 東北電力株式会社十日町営業所 ●参加費 一人500円 ●定員 小学生以上の親子6組12人(申込多数の場合抽選) ●申込み・問合せ 8月3日(木)までに東北電力十日町営業所(☎757-1987)

募集

十日町おまつり「明石万灯」大民謡流し 参加団体募集 ●日時 8月25日(金)午後7時~9時 ●申込み・問合せ 8月3日(木)までに、明石万灯・十日町おまつり実行委員会(商工会議所内 ☎757-5111)・民謡流し・十日町観光協会(☎757-3345)

石彫絵コンテスト

夏休みの思い出に石彫の絵を描いてみませんか。先着100人に図書券をプレゼントします。 ●募集期間 7月29日(土)~8月11日(金) ●対象 小学3年~6年生 ●応募方法 画材、色彩は自

7月の納税・納付

7月は固定資産税第2期、国民健康保険税第4期及び介護保険料第4期の納付月です。期限内に納めましょう。 ●問合せ 税務課・保険年金課

8月の休館日

●中央公民館 毎週月曜日 ※13日(日)・15日(火)は午後5時閉館 ●千手中央コミュニティセンター 毎週火曜日 ●博物館 8月は休館しません ●情報館 毎週月曜日・31日(木) ※15日(火)・16日(水)・25日(金)は午後5時閉館 ●総合体育館 毎週火曜日 ※13日(日)・14日(月)と25日(金)~27日(日)は午後5時閉館 ●川西総合体育館 9日(水)・23日(水) ●松代総合体育館 毎週月曜日 ※26日(土)は午後5時閉館

むし歯のないよい歯の子

Table with 3 columns: 本庁で6月の3歳児健診を受けた子33人, よい歯の子, 住所, 保護者. Lists names and addresses of children with good dental health.

由。四つ切り用紙を使用し中心市街地石彫マップに掲載されている石彫を描く。 ●受付・問合せ 十日町商工会議所TMO事務局(☎757-5111)

皇居勤労奉仕団員募集

十日町市皇居勤労奉仕団妻有会では第34回奉仕団員を募集します。 ●期日 19年4月(4泊5日) ●参加費 73,000円 ●定員 先着50人 ●申込み・問合せ 8月31日(木)までに、片桐久作(☎757-3948)

健金 保年

南魚沼児童相談所と知的障害者更生相談所による、発達の遅

巡回相談

●ひだまりプール 休館日なし ※8月の毎週土曜日は10時~一般解放。13日(日)~17日(木)は午前10時~午後6時(受付終了午後5時)

生ごみの水切りと減量にご協力を

台所などの生ごみは、十分水切りをして出してください。特に夏は果物などの生ごみが多くなり、焼却に負担がかかります。また、コンポストや電動生ごみ処理機などを使い、たい肥化して利用することもごみの減量に有効です。自家処理によるごみの減量と生ごみの水切りにご協力ください。 ●問合せ 環境衛生課(☎752-3924)

ご存じですか? 検察審査会

「犯罪の被害にあったが検察官が事件を裁判にかけてくれず納得できない」。こんな不満を持っている人のために検察審査会という国の制度があります。検察審査会では、選挙権を有する一般市民の中からくじで選ばれた11人の審査員が、犯罪の被害者などの申立てによって、検察官が事件を裁判にかけなかったことが正しいかどうかを審査し

れ、療育手帳の判定、不登校、性格行動上の問題など児童や18歳以上の知的障害者に関する巡回相談です。 ●期日と会場 8月29日(火)松代総合センター、9月7日(木)中里デイサービスセンター、 ●相談時間 午前10時~午後3時 ●相談員 児童福祉司、心理判定員、子育て支援相談員など ●申込み・問合せ 実施日の2週間前までに、福祉課子育て支援係(内線135)

4月~7月分の児童扶養手当を振り込みます

児童扶養手当は、離婚などにより父と生計を同じくしていない児童を養育している母など(養育者)に支給されます。4月~7月分を8月11日(金)に振り込みます。 ●手当額 受給者により異なるので証書で確認してください ●問合せ 市役所保険年金課年金係(内線167) または各支所市民生活課

8月11日は老齢福祉年金の支払日です

老齢福祉年金の支払いが8月11日(金)から市内各郵便局で始まります。該当者(代理人可)は受領してください。 ●持参するもの ①印鑑 ②国民年金証書 ●年金受領後の手続き 国民年金証書と福祉年金所得状況届(定

行方不明の人を捜す 無料相談所開設

●巡回相談所 8月3日(木)午前9時30分~午後5時・上越警察署(☎025-521-0110) ●8月9日(水)午前9時30分~午後5時(☎025-524-5160)

市報おわびと訂正

7月10日号に誤りがありました。7ページ中「尾身さん」と記載すべきを「尾見さん」と記載したところがありました。28ページ中連載番号は⑧でした。おわびして訂正します。

大地の芸術祭パスポート販売施設一覧

- 地域パスポート販売施設: 本庁総合政策課・支所地域振興課・公民館・情報館・博物館・広域事務組合企画振興課
共通パスポート販売施設: 本庁総合政策課・支所地域振興課・公民館・情報館・博物館・広域事務組合企画振興課
【十日町】 クロス10・共立観光(株)・ほっくほくなんでも案内所・当間高原リゾート・原田屋旅館・ホテルむかてや・西田屋旅館・旅館清水屋・ホテルしみず・御旅館はっとり・よし本旅館・ビジネスホテル信江・ハマヤ荘・やすらぎ・(株)鷹の湯・見晴館・湯本荘・舌番館・かみや・ホテルニュー十日町・二葉家・太田屋旅館
【川西】 松葉荘・光の館・千手温泉千年の湯・ナカゴグリーンパーク
【中里】 林屋旅館・清津峡ホテル・清津館
【松代】 芝峠温泉雲海・(有)東部タクシー
【松之山】 鄙の宿千歳・和泉屋・野本旅館・墨田ホテル・白川屋・福住館・米屋旅館・玉城屋旅館・つたや旅館・凌雲閣・明星旅館・植木屋・おひくろ館・ばーどがーでん・みよしや・民宿ゆのしま・グリーンハウス里美
●問合せ 広域事務組合企画振興課 757-2637



●休日救急医

期日	医療機関名	住所	電話番号
6日(日)	石川医院	津南町	766-2061
	中条病院	北原	757-3018
13日(日)	川西診療所	高原田	768-2034
20日(日)	上村病院	田中	763-2111
	山口医院	袋町中	752-2174
27日(日)	大熊内科医院	山本町1	752-7066

●乳幼児健診

- ◎会場…十日町保健センター（十日町市役所となり）
- ◎持ち物…母子健康手帳、問診票、フッ素塗布希望確認票（1歳6か月児のみ）視聴覚アンケート（3歳6か月児のみ）着替えやおむつなど必要なもの
- ◎対象の期日に受診できなかったときは、住んでいる本庁または各支所へ連絡してください。
- ◎3歳6か月児健診前に検査セットを送りますので、届かない人は本庁へ連絡してください。

事業名	期日	受付時間	対象児
4か月児健診	30日(水)	午後1時～1時30分	18年4月生まれの乳児
10か月児健診	23日(水)	午後1時～2時30分	17年10月生まれの乳児
1歳6か月児健診	9日(水)	午後1時～1時30分	17年2月生まれの幼児
2歳6か月児身体測定	23日(水)	午前9時～9時30分	16年2月生まれの幼児
3歳6か月児健診	17日(木)	午後1時～1時30分	15年2月生まれの幼児

予防接種・健康相談・休日救急医・乳幼児健診の問合せ

十日町本庁(代表) ☎757-3111	川西支所(健康福祉課直通) ☎768-4957	中里支所(健康福祉課直通) ☎763-3121	松代支所(健康福祉課直通) ☎597-2221	松之山支所(健康福祉課直通) ☎596-2169
------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------	-----------------------------

●国保診療所臨時休業のお知らせ

- 【川西診療所】 14日(月)・23日(水)午後小児科  
29日(火)午後・31日(木)午後
- 【倉俣診療所】 14日(月)・15日(火)・28日(月)午後・30日(水)午後
- 【中里歯科診療所】 14日(月)・15日(火)
- 【室野診療所】 15日(火)
- 【松之山診療所】 15日(火)午後・28日(月)午前・29日(火)午前・30日(水)午前・31日(木)午前

つづが虫病に注意してください

十日町市内でつづが虫病が6件発生しました。農作業や山菜採りで山林や草むらなどに立ち入るときは次のことに気をつけましょう。

- 長袖・長ズボン・長靴・手袋などを着用し、できるだけ素肌を露出しない
- 虫よけスプレーなどの防虫剤を衣服や手に散布する
- 衣類は直接土や草の上に置かない
- 草むらでは用便をしない

◎高熱や発疹などの症状が出たら、速やかに診察を受けましょう

●離乳食教室

対象児と内容	開催日
2か月～4か月児 離乳食準備期～前期	8日(火)
会場 十日町保健センター 時間 午前10時～正午 (受付9時45分～) 直接会場にお越しください 持ち物 母子健康手帳	

●ちびっこひろば

なかよしランド

8月はお休みです。  
9月5日(火)からまた始まります。  
●申込み・問合せ 中央公民館 ☎757-5011

おはなしたまてばこ

読み聞かせ、手遊びなどを行います。  
●日時 10日(木) 午前10時～11時  
●対象 乳幼児とその保護者  
●会場 情報館  
●問合せ 情報館 ☎750-5100

どんぐりおはなしのへや

読み聞かせ、パネルシアターなどを行います。  
●日時 19日(土) 午後3時～3時40分  
●対象 幼児・小学生  
●会場 情報館  
●問合せ 情報館 ☎750-5100



●健康相談

保健師による相談

期日	会場	受付時間
7日(月)・21日(月)	十日町保健センター	午前9時30分～11時30分
10日(木)	吉田就業改善センター	午前9時30分～11時30分
	山谷集会所	午後1時30分～3時30分
18日(金)	中条公民館	午前9時30分～11時30分
	北原集落センター	午後1時30分～3時30分
28日(月)	水沢公民館	午前9時30分～11時30分
	平成園	午後1時30分～3時30分
23日(水)	千手中央コミュニティセンター	午前9時～午後4時30分
	松之山支所	午前8時30分～午後5時
24日(木)	中里総合センター	午前9時～11時
24日(木)	松代保育園	午前9時～11時

※健康手帳のある人はご持参ください。

●心の健康相談

●日時 25日(金) 午後2時～4時  
●会場 十日町保健センター  
●医師 奈良医師（中条第二病院）  
●申込み・問合せ 健康支援課成人保健係（内線126）または、十日町地域振興局健康福祉地域保健課 ☎757-2400

●全血献血

●日時 2日(水)  
●会場と受付時間 下条公民館 午前9時30分～11時30分  
午後1時～3時30分  
●問合せ 健康支援課地域医療係（内線128）



●高齢者職業相談

毎週月～金曜日午前9時～午後5時  
会場：高齢者職業相談室（サンクロス十日町内）  
おおむね45歳以上が対象です

●定例行政相談

毎月第2金曜日 午前10時～午後3時  
会場：本庁市民相談室・行政相談室

●行政相談

【川西地区】22日(火)午後1時30分～4時  
会場：はあとふる川西  
【中里地区】随時受付：行政相談員上原宅 ☎763-2617

●法律相談 電話で市民生活課市民係へ要予約

毎週木曜日 午後1時30分～4時  
会場：本庁市民相談室・行政相談室

●定例社会保険・年金相談

毎月第2・第4木曜日  
午前10時～正午、午後1時～3時  
会場：クロス10

●心配ごと相談 問合せ 社会福祉協議会☎750-5010

会場：社会福祉協議会（本所・支所）  
時間：午後1時30分～4時  
▽十日町本所 毎週木曜日  
▽松之山支所 8日(火)      ▽松代支所 4日(金)  
▽中里支所 18日(金)      ▽川西支所 22日(火)

▼大地の芸術祭プレストゥアーに参加しました。「日本で初めての作品です」作家の代表作になるでしょう。北川フラムさんの解説は明快です。が、ときどき「これは…何だかわからないですわね」という言葉も。「え、総合ディレクターでもそんなの…なんだ、無理して分かるうとしなくていいんだ」と気づいてからは、「靈きゅうハウス」「スチール・ソーセージ」「ゲグスの学校」「モグラのぞき」「空中カゲテン」などと勝手にネーミングしながら見てまわりました。するとなぜか、一つひとつの作品がとも印象深く身近に感じられるようになるから不思議です。「全作品に裏タイトルを付けよかな」と、ふらちなことを考えている今日このごろです。

▼本町通りに並ぶ方言のぼり（作品名…じよんのび職プロジェクト）楽しんでですね。思わず声に出して読んでみたくなる。見慣れないピンク色ののぼりが、街の表情も変えています。

▼芸術祭オンナの私が目覚めたのは、おとしの2004夏10daysのときに、仕事を通じて作品製作に関わったパフォーマンスを見たときから。2000年夏、「なんかすごいことが始まるらしい…」でスタートした第1回大地の芸術祭…あれから6年、再び「越後妻有アートトリエンナーレ2006」の開幕です。作品の数は約330点。「ふくん」「へん」…「感じ方はそれぞれ。視て聞いて食べ…この夏は思い切り五感を楽しもう。」▼中平のフナ林に咲く3万本の花の中に、私の作った「こころの花」も咲いています。



（優）



発行/十日町市役所 〒948-8501 新潟県十日町市千歳町3丁目3番地 TEL.025-757-3111 FAX.752-4635  
 E-mail info@city.tokamachi.niigata.jp URL http://www.city.tokamachi.niigata.jp 編集/総務課広報広聴係

# とよかまち イチオシ

# 地の 大芸術祭



大地の芸術祭いよいよ開幕。地域や作家、そしてサポーターなど多くのパワーを結集して、熱い50日間が始まりました。今回の芸術祭のテーマにしている、陶芸、生花、空家プロジェクトは見どころの一つ。各地域で展開する見応え、手応え十分な催しをお楽しみください。



## 『小白倉いけばな美術館』

現代のいけばな界の第一線で活躍するいけばな作家21人による連続個展。小白倉集落内の民家や野外に現代のいけばな作品が展示されます。

- ▼場 所: 小白倉集落内
- ▼問合せ: 川西支所地域振興課 ☎768-4951



## 『願入陶芸村』

下条・東下組地区では、今回20を越える作品が展示されます。中でも願入集落では再生した古民家レストランで地元料理が味わえたり、8人の陶芸作家が作品を展示したりして盛りだくさん。

- ▼場 所: 願入集落内
- ▼問合せ: 大地の芸術祭実行委員会 ☎757-2637



## 『世界太鼓フェスティバル』

室野地区にある洪海川の瀬替えによって作られた田んぼに、世界各地から太鼓演奏者が集まります。里山の風景に響きあう勇壮な太鼓の音をお楽しみください。

- ▼開催日・場所:  
8月5日(土) 農舞楽回廊(室野地内)  
※悪天候時はまつだい農舞台
- 8月6日(日) まつだい農舞台
- ▼時 間: 両日とも午後6時～8時
- ▼問合せ: まつだい農舞台 ☎595-6180



## 『パークレット』

駐車場を舞台に、車をパイに見立てた簡単な色合わせゲーム。隣り合った数台の車の色がそろったら「コンボ」成立！今年の夏は温泉、プール、そしてパークレット！

- ▼日 時: 8月4日(金)～8月6日(日)、9月2日(土)～9月3日(日)
- ▼場 所: ミオンなかさと駐車場
- ▼問合せ: 中里支所地域振興課 ☎763-3111



- ▼『地球環境セミナー』  
これまでの芸術祭でも好評を博した「地球環境セミナー」。3回目の今回は旧三省小学校(現三省地区コミュニティ施設)で、今芸術祭のテーマの一つである「空家プロジェクト」について探ります。お聞き逃しなく。
- ▼日 時: 8月5日(土)、8月6日(日)
- ▼場 所: 三省地区コミュニティ施設
- ▼問合せ: 大地の芸術祭実行委員会事務局 ☎757-2637



携帯サイト

